

小学生・中学生の皆さんへ

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>

荒川区報 Jr. は
荒川区ホームページで
ご覧になれます



あらかわ区報 Jr.

ジュニア

ARAKAWA KUHO JUNIOR

No.170

9.24
2025年[令和7年]

発行：荒川区 発行部数：23,000部
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111



アキアカネ

モズ

ムラサキツバメ

タコノアシ

あらかわ 生き物探し隊!



都市化が進んだ荒川区には、生き物がいないと思っていませんか？
実は私たちが気付かないだけで、さまざまな種類の植物・鳥・昆虫たちが、公園や隅田川周辺などで暮らしています。今回は、赤土小学校のジュニア記者たちが、都立尾久の原公園で身近に生育・生息する生き物を大搜索！
一体どんな生き物と出会えるのでしょうか？



[問合せ] 環境課 ☎(3802)4694

次は11月に発行する予定です

花壇ゾーン

紫色のラベンダーは
昆虫がよく集まる
花だよ



ニホンヤモリ



ネムノキ



ラベンダー

【園部 結海さん】

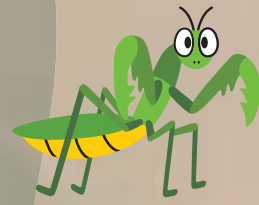
公園入口近くのサービスセンター周辺は、花壇や樹木が多いゾーンです。花のそばには蜜を求めてハチやチョウが飛んでいたりと、木陰や草むらにヤモリやカエルが潜んでいることも。花や実がついた木もあるので木の上も見てみよう。



ラクウショウ



キムネクマバチ



ヒルザキツキミソウ



虫の王国ゾーン

虫の王国ではときどき
カマキリも見つかるよ



シロツメクサ

広い原っぱの中にある「虫の王国」は、自然のままに草を伸ばしているの昆虫がたくさん集まります。歩く時は、虫を踏まないように足で草を払いのけながらゆっくりと進みましょう。草の中に隠れているバッタの仲間たちが跳んで姿を見せてくれます。



【七條 沙彩さん】

みんなで見つけよう!

あらかわ 生き物大図鑑

in 尾久の原公園

都立尾久の原公園は、大正時代からあった工場の跡地に1993年に開園しました。約6万㎡もの広大な園内には、草地や樹林だけではなく、池や大きな湿地(水をたっぷり含んだじめじめした土地のこと)もあり、水辺の環境が充実しています。そのため、区内で最もいろいろな生き物が見られるといわれ、生き物を観察するにはおすすめの場所です。
※掲載する生き物は取材が行われた6月時点に生育・生息していたものです。



オカダンゴムシ

ダンゴムシが落ち葉を
分解してくれるんだよ



【小山 達琉さん】



「バイオネスト」とは、園内で集めた枯れ枝などを鳥の巣のように組んで、落ち葉や刈り取った草を入れて堆肥を作る場所のこと。じっくりのぞいてみると、ダンゴムシやワラジムシなどの小さな虫たちの住み家になっていることがわかります。

バイオネストゾーン



トンボ池ゾーン

自然にできた水たまりが元で、降った雨水が水源の「トンボ池」は、その名のとおり都内有数のトンボの生息地。4～10月ごろに多くのトンボが現れます。面白い形の植物や水鳥もいるのでよく観察してみましょう。

水面をのぞく時は
池に落ちないように
気を付けて!



【篠崎 由花理さん】



ミコシガヤ



ショウジョウトンボ



ギンヤンマ



バン



チガヤ

Biome(バイオーム)について



区では、令和6年度からスマートフォンアプリ「Biome(バイオーム)」を使った生き物調査を実施しています。生き物の写真を撮影し、アプリで投稿すると種類の判別をAI(人工知能)が補助してくれます。令和6年夏の調査では248人が参加。3,555件、1,391種類の生き物の投稿がありました。今年度の調査にもぜひ、ご参加ください。

令和7年度の生き物調査「あらかわとつこう! あらかわ生き物大図鑑2025秋」

期間●9月16日(火)～11月16日(日) 課題●区内で撮影した10種類の生き物写真の投稿など課題を達成した方には抽選で賞品をプレゼント(アプリの賞品応募画面から必要な情報を入力してください)。調査結果は生物多様性の保全のために利用されます。



Biomeの
ダウンロード
はこちら→

荒川区の取り組み

①自然観察会

季節に応じて、干潟の生き物、河原の昆虫、野鳥、桜などをテーマにした自然観察会を開催しています。都立尾久の原公園でも毎月1回程度、公園主催の観察会が開催され、区職員が生き物の解説をしています。私たちの身の回りにどんな生き物がいるのか、ぜひ、皆さんも探して学んでみてください。きっと驚きの発見があると思います。

②森林体験ツアー

友好交流都市などにご協力いただき、森と触れ合い、森をつくる森林体験ツアーを実施しています。令和7年度は山梨県甲府市、新潟県村上市、福島県福島市でツアーを開催。生き物たちを支える森づくりのためにさまざまな種類の木を植える植樹体験も行っています。



鮭のまちで学ぶ
森林・自然体験ツアー



葛西海浜公園干潟の生き物観察会

あらかわ生き物探し

Q&A

- Q1 「アキアカネ」がヤゴから羽化してトンボの姿になるのは秋です。
- Q2 秋にやって来る渡り鳥の「コガモ」は、体の大きな「マガモ」から生まれた赤ちゃんです。
- Q3 「タコノアシ」の名前の由来は、穂が真っ赤になるからです。

答えは4面にあります

Close-up



あらかわ子ども文化体験フェスタを開催しました

7月27日、サンパール荒川で「あらかわ子ども文化体験フェスタ」が開催されました。イベントでは、華やかな衣装に身を包んだ子どもたちの日本舞踊の発表に続き、民謡、詩吟などが披露されました。また、さまざまな体験をしながら学べる教室では、それぞれ興味を持った体験教室に参加して、作法や技術を教わり真剣に取り組んでいました。

問合せ:生涯学習課 ☎内線3355



民謡の発表



将棋の体験



盆栽の体験

あらかわ生き物探し

○×クイズの答え

A1 ×

「アキアカネ」は卵からふ化してヤゴになり、6月頃、稲の茎などにのぼって羽化し成虫になります。

A2 ×

「コガモ」は日本の水辺でよく見られるカモの中でも特に小さい種類ですが、「マガモ」の赤ちゃんではありません。

A3 ○

「タコノアシ」の穂は秋になると赤くなり、まるで茹でたタコの足ようになります。

日暮里道灌まつり開催!

日時:11月1日(土)午前10時~午後3時 場所:日暮里駅前イベント広場

室町時代に江戸城を造ったといわれている武将・太田道灌。太田道灌ゆかりの地の自治体などの皆さんと一緒に、名産品の販売やステージイベントを行う日暮里道灌まつりを開催します。

紙芝居の上演やカッコイイ武士の甲冑隊のステージショー、ステキな名産品の販売など盛りだくさんのイベントだよ。ぜひ、遊びに来てね!

太田道灌ゆかりの自治体・店舗による物販販売・PR

ご当地グッズや野菜などの名産品、荒川区ゆかりの江戸東京野菜である三河島菜の販売、リサイクル図書の配布などを行います。



ステージイベント

おまつりを盛り上げる演出をたくさん用意しています。



手作り甲冑着付けと武者メイク体験

神奈川県伊勢原市の伊勢原手作り甲冑の着付けや「顔師」宮田肇さんによる武者メイクも体験できるよ!



三河島(現在の荒川地域)に残る「山吹の里伝説」とは

鷹狩りの途中で雨に降られた道灌が民家に雨具の「蓑」を借りに行くと、その家の少女は「蓑」ではなく山吹の花の枝を差し出しました。道灌は腹を立てて帰りますが、兼明親王の古歌「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき」に基づいて、蓑が無いのを「実のひとつだになき」にかけていたものだったと知り、和歌の知識がなかった自分を恥ずかしく思います。この出来事がきっかけで道灌は和歌の勉強に励んだ、という伝説があります。



吉村昭記念文学館 ~吉村昭と文学の魅力~ vol.4

【問合せ】吉村昭記念文学館 ☎(3891)4352



戦争関連の証言を記録したカセットテープは、100本以上になったそうだよ
『戦史の証言者たち』
昭和56年 毎日新聞社

吉村昭のベストセラー小説『戦艦武蔵』

今年は、戦争が終わってから80年という、とても大切な年なんだ。吉村昭は、戦争についてたくさん本を書いた小説家だよ。

吉村昭は、戦争の時、現在の東日暮里に住んでいて、空襲を体験したんだ。そして18歳の時に、戦争が終わったんだよ。

戦争に日本が負けた、ということが信じられなかったけど、それよりも、大人の人たちの態度がガラッと変わったことに、すごくびっくりしたんだって。「戦争中、私と同じように一心に働いていた人々の群れは、いったいどこへ行ったのだろう」と「二つの精神的季節」(『精神的季節』昭和47年講談社)に書いているよ。

吉村昭は、「人間は背景によって変色するもろさ」を持っていて、「本当の戦争のこわさは、人間を変質させることにある」(『日本経済新聞』昭和47年(月日不詳))って考えて、自分が見た戦争のこと、日本人のことを書こうと決めたんだ。そして、『戦艦武蔵』という、とても長いお話を書き始めたんだよ。

吉村昭は戦争を体験した人に直接会って、お

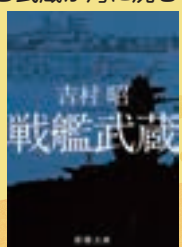
話を聞くことにとても力を入れたんだ。本には載っていない、生の声を聞くことで、もっと書きたい気持ちになったんだって。

『戦艦武蔵』ってどんな本?

『戦艦武蔵』は、小説家としての私の「視野を極度に拡大させてくれた、記念すべき小説である」、とおもっている『吉村昭自選作品集』第2巻「後記」(平成2年 新潮社)の中で書いているよ。

『戦艦武蔵』は、昭和13年に長崎の大きな工場で作られ始めた「武蔵」という戦艦のお話だよ。当時の日本の技術を使って、約4年かけて秘密で造られたんだ。この本では、武蔵が造られる様子を中心に、計画から武蔵が海に沈むまでが描かれているんだ。

展示室には、戦艦武蔵のプラモデル(製作:株式会社童友社)250分の1サイズが、展示されているよ。ぜひ、見に来てね。今回紹介した本も読んでみよう!



『戦艦武蔵』昭和46年 新潮文庫刊